

新除草・調節剤

アトリナール® 植物成長調整剤

(取扱メーカー) 日本ロシュ株式会社
三 共 株式会社

対象作物：ツツジ類・イヌツゲ・カイズカイブキ・サワラ・イボタノキ・アベリア。

成分・作用特性：本剤は、ナトリウム-2,3,4,6-ジ-*o*-イソプロピリデン- α -L-キシロ-2-ヘクスロフラノンナートを18.0%含有する青色透明の液体である。

本剤は、単糖類の誘導体としては最初の植物成長調整剤である。主として葉面より吸収されて、頂芽の分裂組織のDNA合成を阻害して正常な細胞形成を妨げることにより、摘芯と同様な効果を生じ、側芽形成を促進する。本剤の吸収移行は、最上位の葉において最も活発であり、下位にゆくに従って弱くなる。このことは、下位の葉ほど老化が進んでおり、光合成能力が低下していることも関連があるようである。

特徴：①毒性がきわめて低い。②生育旺盛な時期に散布すると、頂部優勢を阻止して腋芽を誘発する。③本剤散布後葉色に変化することが

あるが、これは薬効が現われはじめた証拠で、変色は徐々に目立たなくなる。④イヌツゲに散布した場合、落果は徐々に進むが果実の肥大は既に停止しているので、樹勢を弱めることはない。

毒性：急性経口毒性は、マウス・ラット♂♀ともにLD₅₀は15,000 mg/kg以上で普通物、魚毒性は、コイでTLm48が15,000 ppmでA類である。

使用方法：ツツジ類の分枝数を目的とする場合は、新梢伸長初期に30～50倍液を散布する。アザレアの場合は、60～100倍液とする。イヌツゲの摘果を狙う場合は、開花期に100～200倍液を散布する。カイズカイブキ・サワラ・イボタノキ・アベリア等の生垣の生育抑制のためには、新梢伸長初期に100倍液を散布する。散布液は、10アール当り250ℓを茎葉全面に散布する。展着剤は必ず加用する。

使用上の注意：①本剤が茎葉に充分に付着するように展着剤を加用して全面に散布すること。②灌水は本剤散布前に行ない、葉面が乾いてから散布すること。③本剤散布後に降雨が予想される時は散布を見合わせる。④生垣は造成後3年以上経過したものを使用すること。⑤生育旺盛な時期に散布すること。

●新刊●

日本カイガラムシ図鑑

河合省三著

A5判／464頁／カラー500点／定価5,000円

日本から記録されたカイガラムシ400余種を収載。生態写真・図版を豊富に使うとともに生態、形態、寄主植物、分布一覧等を記載し種の同定を容易にした。専門外の読者も十分楽しめる貴重な図鑑。

●新刊●

日本ダニ類図鑑

江原昭三編

B5判／536頁／上製本箱入／定価12,000円

あらゆるものに寄生し、医学、農学、生物学の各分野から高い関心を集めているダニ。本書は日本産ダニ1,000種の形態と特徴を線画と対照しながら解説、うち主要100種については巻頭カラーで紹介した貴重なダニ類総合図鑑。

全国農村教育協会

東京都台東区台東1-26-6(植調会館) 〒110 ☎03(833)1821

振替東京1-97736